



「安倍バブルで景気回復、本当ですか？」

トヨタ「+13万」の105万円、マツダ「+16万」の107万円ほか  
ホンダ「+15万」の107万円  
麒麟ビール「-5万」

どこよりも  
早い

# 有名企業

# 夏のボーナス

自動車以外の製造業では、業界内で明暗が分かれたケースが多い。電機関連では、

## 書くに忍びない「ダウン組」

日立や安川電機などがボーナス増額になった。ただし、前年比1万1549円アッ

「大増アップといっても、自動車のなかでうちだけが満額じゃなかった（苦笑）。一日も早く、トヨタやホンダさんのように100万円超えの満額をゲットできるように頑張らなければ」

中国がくしゃみをすればアベノミクスが吹き飛ぶ。これがグローバル企業の現実である。

マツダも超低燃費技術スカイアクティブの搭載車が好調で、今夏は昨期より平均15万7500円アップの大幅増となった。ところが、50代社員（生産部門）は喜色満面とはいかない様子。

「自動車が好調なので供給量が変わったわけではなく、中国メーカーの供給過剰により鉄鋼が余って、マーケットでの価格が下落したことが大きな要素です。鉄鋼製品の単価は、1割以上下落している。理由は中国の景気減退で、そちらの煽りを受けてしまった」

ボーナスの明暗は、自動車とそれ以外でくっきり分かれているということだ。その指摘通り、本誌調査でも自動車メーカーはひとり勝ちの様相を呈している。トヨタは、5年ぶりに営業利益が黒字転換する見込みで、満額回答の105万円。前年比13万円アップである。日産やホンダも満額回答を勝ち取った。

なんと驚愕な悩みである。それと対照的なのは、自動車向けの鋼板を卸す鉄鋼業界である。鉄鋼メーカーが加盟する基幹労連の組合員1人当たりの夏のボーナス平均額は、昨年の69万3157円から3万円以上のダウンとなった。業界の雄、神戸製鋼所の広報担当者は率直な悩みを吐露した。

万」の67万円、輸出企業に追い風吹くも、の91万円、神戸製鋼「-7万」の45万円と輸入産業は軒並みダウン、中小企業は3割がボーナスゼロの壊滅状態

# 85社

# 明と暗速報

アベノミクス効果は驚きの「マイナス6255円」

## 平均はマイナス6255円

「アベノミクス効果でどれだけボーナスが上がったか」――注目を集めた連合の「春闘の回答集計結果（第4回）」には、サラリーマンにとって衝撃的ともいえる数字が記されていた。

1ナスが、マイナス6255円（688組合の平均）と下がっていることだ。賃金事情に詳しい経済ジャーナリスト溝上憲文氏は、春闘の結果をこう見る。

4月12日までに会社側から回答を引き出した2314組合の集計結果によれば、賃金の引き上げ額の平均は前年比でわずか月額67円の引き上げにとどまった。本誌4月19日号では「春闘による賃上げ額は51円で、花見で缶ビール1本飲めば4か月分が吹っ飛ぶ」と書いたが、追加回答によってそれが「3か月分」で済むようになった程度である。それ以上に驚くのは、せめてもの期待だった夏のボ

「夏のボーナス額が前年比でマイナスになったのは、回答している労組に電機、鉄鋼、化学など業績が悪化したところが多く、とりわけ中国や韓国に押されて業績が悪い鉄鋼に足を引っ張られた結果と考えられます。一方で、夏冬合わせた年間の一時金総額はプラス4万3797円（637組合の平均）となった。これは、満額回答が続出した自動車業界の多くが、年間額しか連合に提出していないからこれでわかるのは、今年の

世に広がるアベノミクスの賃上げムードの中、サラリーマンの期待はもうすぐ支給される「夏のボーナス」に集まっている。が、どれだけ増えるかと思っていたら、「おや？」という展開が待ち受けているかもしれない。本誌85社調査で判明したのは、バラ色とは言い難い「アベノボーナス」の明暗だった。

# 有名企業85社「夏のボーナス上がった? 下がった?」リスト

業種	会社名	今夏のボーナス額	昨夏のボーナス額	増減	1人当たりの内部留保	1人当たりの営業利益	年初からの株価増減(現在の株価)
電気機器	日立製作所	80万1965円 (36.8歳組合員モデル)	79万0416円	▲ 1万1549円	379万円	128万円	+78円 (608円)
	三菱電機	72万6000円 (組合員平均)	79万5500円	▼ -6万9500円	845万円	128万円	+138円 (892円)
	富士電機	75万8600円	70万9950円	▲ 4万8650円	229万円	91万円	+107円(325円)
	安川電機	年間4か月+業績連動分 (38.5歳、組合員)	年間138万0000円	▲	748万円	150万円	+216円 (1062円)
	シンフォニアテクノロジー	49万1600円 (55歳以下の組合員平均)	49万1000円	▲ 600円	303万円	51万円	-6円 (166円)
	明電舎	年間121万4788円 (組合員平均)	年間121万1308円	▲ 年間3480円	170万円	107万円	-21円 (280円)
	山洋電気	38万9796円 (組合員平均)	39万1885円	▼ -2089円	676万円	127万円	+206円 (686円)
	ダイヘン	61万3184円 (33.5歳、組合員平均)	62万2888円	▼ -9704円	696万円	70万円	+14円 (272円)
	JVCケンウッド	1.8か月	2.25か月	▼ 0.45か月	166万円	75万円	-74円(252円)
	GSユアサ	年間4.7か月(組合員)	年間5.15か月	▼ 年間-0.45か月	277万円※1	80万円※1	+32円(383円)※1
	沖電気工業	68万8800円 (38.6歳、組合員平均)	68万8800円	→ 0円	-129万円	57万円	+27円 (135円)
	パナソニック	ボーナスは業績連動で、会社側が労組に2割削減を提案		▼	291万円	45万円	+168円 (705円)
	シャープ	今夏のボーナス額は昨夏の半額		▼	-330万円	-301万円	+55円(350円)
	帝国通信工業	50万6840円 (35.6歳、組合員平均)	49万3895円	▲ 1万2945円	341万円	3万円	+30円(189円)
	パイオニア	年間2.5か月(組合員)	年間4.1か月	▼ 年間-1.6か月	114万円	42万円	-9円(209円)
	リオン	80万0000円 (組合員平均)※2	78万1000円	▲ 1万9000円	683万円	195万円	+252円 (879円)
日本電子	年間119万2807円 (組合員平均)	年間87万2038円	▲ 年間32万0769円	44万円	112万円	+176円 (424円)	
カシオ計算機	年間185万3936円 (組合員平均)	年間166万6290円	▲ 年間18万7646円	461万円	158万円	+7円 (796円)	
輸送用機器 自動車	三井造船	年間4.5か月(組合員)	年間4か月+30万円	▼ 0.5か月-30万円	1063万円	200万円	+34円(172円)
	日本車輛製造	67万5000円+5万円 (40.7歳、組合員平均)	70万0000円+5万円	▼ -2万5000円	1304万円	176万円	+101円 (435円)
	近畿車輛	52万0000円 (組合員平均)	57万0000円	▼ -5万円	2916万円	32万円	+13円 (306円)
	日産自動車	年間204万1000円(41.8歳、組合員平均)	年間196万4000円	▲ 年間7万7000円	1998万円	365万円	+170円 (1024円)
	いすゞ自動車	2.7か月	2.6か月	▲ 0.1か月	1310万円	496万円	+106円(644円)
	トヨタ自動車	100万0000円+5万円 (38歳、組合員平均)	92万0000円	▲ 13万円	3764万円	350万円	+1290円 (5550円)
	日野自動車	70万8500円 (33歳、組合員平均)	66万4000円	▲ 4万4500円	323万円	218万円	+536円 (1353円)
	三菱自動車工業	63万1000円 (37.6歳、組合員平均)	66万2000円	▼ -3万1000円	-2360万円	213万円	+8円(102円)
	三菱ふそうトラック・バス	2か月 (38歳、組合員)	1.9か月	▲ 0.1か月	-	-	-
	太平洋工業	年間5.1か月 (35.4歳、組合員)	年間4.95か月	▲ 年間0.15か月	1067万円	134万円	+93円 (581円)
	アイシン精機	83万7000円(35歳高卒勤続17年技能職モデル)	75万3000円	▲ 8万4000円	837万円	177万円	+972円 (3755円)

機械関連では、三菱重工は航空宇宙産業が好調で平均1万25000円のボーナス増となったが、それ以外は軒並みダウンしている。バッテリーの出力問題を起こしたボーイング787で、機体を担当した三菱重工はアップしたのに、エンジンを担当したIHIは1万1596円の減額となった。「B787は現在も計画通り生産が進んでいるので、特に影響はありません。それよりも震災復興の需要が一段落したことが業績に影響したと考えられます。三菱重工さんは大企業で多角化しているので、他の事業でカバーできるのではという」(IHI広報・IR室)

ちなみに、B787にバッテリーを供給するGSユアサは、年間でマイナス0.45か月となっていた。製造業では円安の影響で多くのメーカーが業績が好転する見通しを打ち出しているが、原料費や燃料費は高騰するので、アベノミクス効果が相殺される可能性を危惧する声も多い。絶好

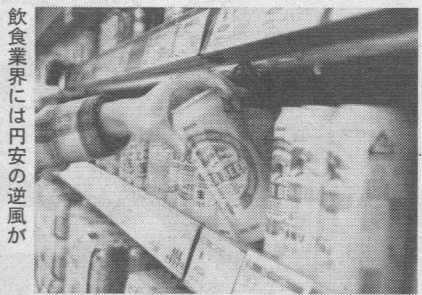
業種	会社名	今夏のボーナス額	昨夏のボーナス額	増減	1人当たりの内部留保	1人当たりの営業利益	年初からの株価増減(現在の株価)
食料品	麒麟ビール	91万0200円 (35歳モデル)	96万1200円	▼ -5万1000円	1944万円※1	373万円※1	+628円 (1653円)※1
	ハウス食品	62万1837円 (35歳モデル)	63万3353円	▼ -1万1516円	3199万円	212万円	+367円 (1697円)
バルブ紙	日本製紙	60万0000円 (組合員平均)	65万0000円	▼ -5万円	434万円	204万円	-
	北越紀州製紙	64万0000円 (41歳、組合員平均)	73万0000円	▼ -9万円	1662万円	97万円	-93円 (426円)
化学	日産化学工業	89万0000円 (37.3歳、組合員平均)	86万3500円	▲ 2万6500円	3963万円	818万円	+129円 (1180円)
	三井化学	61万8500円 (40.5歳、組合員平均)	65万5500円	▼ -3万7000円	1375万円	38万円	-34円 (194円)
	東邦化学工業	57万5671円 (組合員平均)※2	57万0803円	▲ 4868円	850万円	161万円	+6円 (290円)
	第一工業製薬	2.1か月(組合員)※2	2か月	▲ 0.1か月	474万円	228万円	+19円(245円)
	イサム塗料	2.08か月(組合員)※2	2.02か月	▲ 0.06か月	5106万円	455万円	+39円(387円)
新田ゼラチン	80万7689円 (組合員平均)※2	89万0339円	▼ -8万2650円	1256万円	336万円	+551円 (1265円)	
ゴム	横浜ゴム	年間144万0000円 (37.4歳、組合員平均)	年間138万0000円	▲ 年間6万円	750万円	256万円	+596円 (1229円)
	ブリヂストン	79万0000円 (37.3歳、組合員平均)	77万5000円	▲ 1万5000円	997万円	199万円	+1285円 (3675円)
ガラス・土石製品	日本ガイシ	65万0000円 (34.5歳、組合員平均)	70万0000円	▼ -5万円	1290万円	145万円	-13円 (1044円)
鉄鋼	神戸製鋼所	44万5000円 (39歳勤続21年モデル)	51万5000円	▼ -7万円	704万円	27万円	+2円 (114円)
非鉄金属	三井金属	年間147万0000円 (組合員平均)	年間148万5000円	▼ 年間-1万5000円	876万円	138万円	0円 (220円)
	住友金属鉱山	90万5000円 (39.9歳、組合員平均)	90万5000円	→ 0円	7432万円	969万円	+11円 (1271円)
	古河電気工業	62万4000円 (40.2歳、組合員平均)	60万0500円	▲ 2万3500円	155万円	40万円	+38円 (236円)
	住友電気工業	71万9300円 (40歳、組合員平均)	74万1300円	▼ -2万2000円	366万円	42万円	+250円 (1279円)
	フジクラ	59万0000円 (組合員平均)	59万0000円	→ 0円	155万円	13万円	+60円 (335円)
	沖電線	年間98万0000円	年間104万0000円	▼ 年間-6万円	397万円	32万円	+1円(136円)
機械	東芝機械	2.35か月	2.34か月	▲ 0.01か月	1682万円	244万円	+85円(521円)
	住友重機械工業	82万0403円 (組合員平均)	86万0706円	▼ -4万0303円	1119万円	174万円	-10円 (406円)
	井関農機	54万4662円 (39.5歳、組合員平均)	49万8750円	▲ 4万5912円	184万円	88万円	+105円 (338円)
	クボタ	88万9000円 (38.2歳、組合員平均)	84万6000円	▲ 4万3000円	1958万円	344万円	+373円 (1401円)
	ダイキン工業	年間172万0000円 (39.1歳、組合員平均)	年間170万0000円	▲ 年間2万円	962万円	197万円	+850円(3885円)
	日立造船	2か月+5万円(組合員)	2か月+8万円	▼ -3万円	477万円	143万円	+30円(155円)
	三菱重工業	2か月+24.5万円	2か月+23.25万円	▲ 1万2500円	1255万円	213万円	+222円(652円)
	IHI	77万8982円 (36.8歳、組合員平均)	79万0578円	▼ -1万1596円	455万円	123万円	+121円 (353円)
	村田機械	2.2か月(組合員)	2か月	▲ 0.2か月	-	-	-

注/ボーナス額は本誌調べ。1人当たりの内部留保は、各社の連結利益剰余金の額を連結従業員数で割ったもの。1人当たりの営業利益は、3月期、5月期決算の会社は通期連結予想、12月期決算の会社は通期連結実績の額を連結従業員数で割ったもの。年初からの株価増減は1月4日終値からの増減。現在の株価は4月17日終値。ボーナス額の前に「年間」とあるものは夏冬の支給割合が非公表のため、夏冬合計の年間額を記した。+は非公表。+aは業績などで増額する可能性があるもの。年齢は今年と昨年で異なる場合がある。※1/それぞれ親会社の数値。※2/今年と昨年のボーナス額は国民春闘共同委員会調べ。

「2012年の業績の下方修正をしているので、業績がいいからボーナスを上げたというわけではありません。手放して喜ぶ状況ではないので、「他社と比較してうちの業績好調でボーナスアップ」といった明るいイメージで書かれると困ります」(広報・IR部)

ダウン組は紹介するのが忍びない。13年3月期決算で7650億円の赤字を計上する見通しのパナソニックでは、会社側がボーナスの2割カットを組合側に提案し、いまだ妥結していない。経営再建中のシャープにいたっては、労組は春闘を実施せずにボーナスの半額カットを受け入れた。

これまで春闘でボーナス額を公表している企業を中心に泣き笑いをみせてきたが、実は大笑い、大泣きをしているのは、公表していない業種の人々である。たとえば金融緩和の恩恵をストレートに受ける銀行や証券、不動産では、今夏のボーナスは軒並み増額の見通しだが、どこも公表していない。メガバンクが5年ぶりに3行揃ってボーナスアップとなったことはすでに報じられているが、本誌が個



飲食業界には円安の逆風が別調査したところ、三菱東京UFJで40歳課長クラスは昨期より1%アップで1

「不動産に転職した金融マンが、『こんなに高いんだ』と驚いているほど。証券や不動産がミニバブルの先陣を切っている状態だが、取引先の手前もあり『高すぎて公表できない』という」(金融ジャーナリストの小泉深氏)

同じくボーナス額があまり報じられないのが中小企業だが、こちらは反対に超のつく逆風である。前出の溝上氏はいう。

## 高すぎて公表できない業界

に給料が上がるわけではない。一部の富裕層の購買意欲は高まっているが、一般の方々は身近に感じてはいないのではないかと指摘している。

飲食業界の中で支給時期が早いキリンビールは昨年より約5万円減という結果に。「ビールや新ジャンルの販売競争激化によって売上高が前期比1・9%減、営業利益が前期比10・2%減となったため、ボーナスは減

額になりました。12月決算なので、今期はまだ円安の影響はありません。為替予約など原材料調達コストが変動しないような企業努力もしています」(キリンビール広報担当)

そうはいっても、このまま円安が進めばその余波を受けざるをえなくなる。海外から原料を輸入し、国内向けに製品を製造している企業にとって、円安は大きな打撃となるのだ。

割が中小企業であることを考えれば、そのしわ寄せは中小のサラリーマンがかぶっていることになる。だが、ボーナスアップの大企業にしても、果たして企業の儲けが本当に反映されているといえるだろうか。原資がないのかといえば、そんなことはない。表に付記した1人当たりの内部留保と1人当たりの営業利益を見てほしい。例えばトヨタは、1人当たりの年間営業利益が350万円にも及ぶ。これは本業の売り上げから人件費等を差し引いたものだから、これだけの余剰利益が給与に反映されるというのだ。その溜まり先である内部留保にいたっては、一人当たり3764万円という巨額になる。13万円のボーナスアップなど、会社にとっては痛くもかゆくもないのだ。

業種	会社名	今夏のボーナス額	昨夏のボーナス額	増減	1人当たりの内部留保	1人当たりの営業利益	年初からの株価増減(現在の株価)	
輸送用機器自動車	マツダ	66万5500円 (37.6歳、組合員平均)	50万8000円	▲15万7500円	-147万円	120万円	+137円 (322円)	
	ダイハツ工業	2.6か月 (35.8歳、組合員)	2.5か月+a	→	1069万円	323万円	+162円 (1908円)	
	ホンダ	106万7000円 (41.8歳、組合員平均)	91万6000円	▲15万1000円	3188万円	278万円	+640円 (3910円)	
	富士重工業	2.5か月+5万円 (37.5歳、組合員)	2.5か月	▲5万円	846万円	386万円	+590円 (1748円)	
	ヤマハ発動機	2.5か月(組合員)	2.4か月	▲0.1か月	463万円	34万円	+314円(1322円)	
	UDトラックス	1.95か月 (43.3歳、組合員)	1.95か月	→	0か月	-	-	
その他製品	ヤマハ	68万8000円 (42歳、組合員平均)	68万6000円	▲2000円	708万円	35万円	+60円 (983円)	
小売	ローソン	20代後半から40代の正社員のボーナス増で年収約3%アップ	→	→	1833万円	1039万円	+1350円 (7330円)	
	イトーヨーカ堂	4年ぶりにベースアップ(907円)を実施。今後、ボーナス交渉を始める	→	→	996万円	557万円 ※3	+1184円 (3675円)※3	
	ファミリーマート	労組の要求額は昨年と同水準だが、会社判断で約0.7%上積み	▲	約0.7%	2350万円	502万円	+610円 (4180円)	
	高島屋	56万0000円 (44.5歳、組合員平均)	58万0000円	▲2万円	2565万円	322万円	+506円 (1120円)	
	サガミチェーン	27万4169円 (36歳、組合員平均)	26万5440円	▲8729円	137万円	44万円	+123円 (789円)	
陸運	東日本旅客鉄道(JR東日本)	2.85か月	2.55か月	▲0.3か月	2327万円	523万円	+3000円 (8600円)	
	西日本旅客鉄道(JR西日本)	86万0000円 (40.8歳、組合員平均)	82万5000円	▲3.5万円	1331万円	265万円	+1185円 (4620円)	
	東海旅客鉄道(JR東海)	92万9000円 (35歳モデル)	91万4000円	▲1万5000円	5050万円	1449万円	+4560円 (1万1660円)	
	近畿日本鉄道	年間4か月+a(組合員)	年間4か月+a	→(上乗せは+a分)	-35万円	181万円	+110円(475円)	
空運	日本航空(JAL)	53万0000円 (30歳モデル)	48万0000円	▲5万円	534万円	595万円	+470円 (4220円)	
	全日本空輸(ANA)	39万5625円 (27歳モデル)	39万5625円	→	435万円	331万円	+12円 (197円)※1	
通信	NTT東日本	67万1500円 (40歳モデル)	67万1500円	→	0円	4949万円	506万円 ※3	+1040円 (4275円)※3
	NTT西日本	66万7500円 (40歳モデル)	67万1500円	▲4000円	734万円	506万円 ※3	+1040円 (4275円)※3	
	NTTコミュニケーションズ	68万6000円 (40歳一般資格1級モデル)	67万1500円	▲1万4500円	511万円	506万円 ※3	+1040円 (4275円)※3	
	NTTドコモ	年間190万5000円 (40歳一般資格1級モデル)	年間190万8000円	▲年間3000円	1億7338万円	3521万円	+2万7900円 (15万4900円)	
電力	中部電力	77万0000円 (38.8歳、組合員平均)	81万6000円	▲4万6000円	3255万円	-151万円	+113円 (1337円)	
	関西電力	0円(40歳、組合員平均)	80万2000円	▲80万2000円	2505万円	-1037万円	+273円(1245円)	
	北陸電力	72万0000円 (37.1歳、組合員平均)	80万2000円	▲8万2000円	2700万円	73万円	+321円 (1419円)	
ガス	東京ガス	80万1000円	80万7000円	▲6000円	4418万円	845万円	+138円(544円)	
サービス	ジェイコムホールディングス	39万9015円(入社1年以上の27.9歳モデル)※4	42万1030円	▲2万2015円	1365万円	584万円	+109円 (801円)	

※3/イトーヨーカ堂とNTT各社(ドコモを除く)は、それぞれ親会社のセブン&アイ・ホールディングス、日本電信電話の数値。  
※4/今夏は見込み額。

## コンビニと高島屋の明暗

現在の賃上げムードを醸成したのは、ローソンやセブン&アイといった小売大手の賃上げ報道だった。しかし、連合の集計結果によれば、商業流通部門の夏のボーナスの平均は、12万7362円もの減額で、むしろ全体としては「冷夏」に襲われていた。

高島屋は、業績が前期比10%増(280億円)にもかかわらず、夏のボーナスは2万円減と厳しい結果が出た。鈴木弘治・社長は会見で、「円安や株高で一気

『週刊ポスト』次号(5月17日号)は4月30日(火)発売です